

2018年(平成30年)12月15日(土曜日)

北 陸 中 日 新 聞

遺跡保全など貢献

公立小松大・塚脇特任教授

## カンボジアから勲章



和田慎司市長案に受章を報告する塚脇真二特任教授＝小松市役所で

カンボジアの「アンコール世界遺産国際管理委員会」で特別専門委員を務める公立小松大特任教授、金沢大教授の塚脇真二さん(左)＝理学博士＝が、同国

政府から「ロイヤル・モニサラボン勲章」を受けた。十四日に小松市役所を訪れ、和田慎司市長らに喜びを報告した。

管理委はカンボジア政府を中心に日本、フランス両政府と国連教育科学文化機関(ユネスコ)が支援しており、アンコールワットとアンコールトムの修復や保全をしている。塚脇さんは、一九九〇年代からブレンペンで地質学を研究する

など長年同国に関わってきた実績もあり、二〇一二年から委員を務めている。遺跡周辺の環境保全や住民の支援、観光の誘致などを担当している。

四日に同国シエムリアップで開かれた管理委の二十五周年記念式典で、委員六人のうち四人がフン・セン首相から勲章を受けた。この勲章は、同国の発展に尽力した人に贈られる。塚脇さんは「観光、文化財、自然環境、地域住民のバランスをつまぐ取りながら、将来につなげていきたい」と語った。

カンボジアの学生と金沢大、小松短大、公立小松大の学生交流も盛んに行われている。塚脇さんは「学生や若者の交流を通して、カンボジアと小松市の連携を強めていきたい」と話した。

(竹内なぎ)